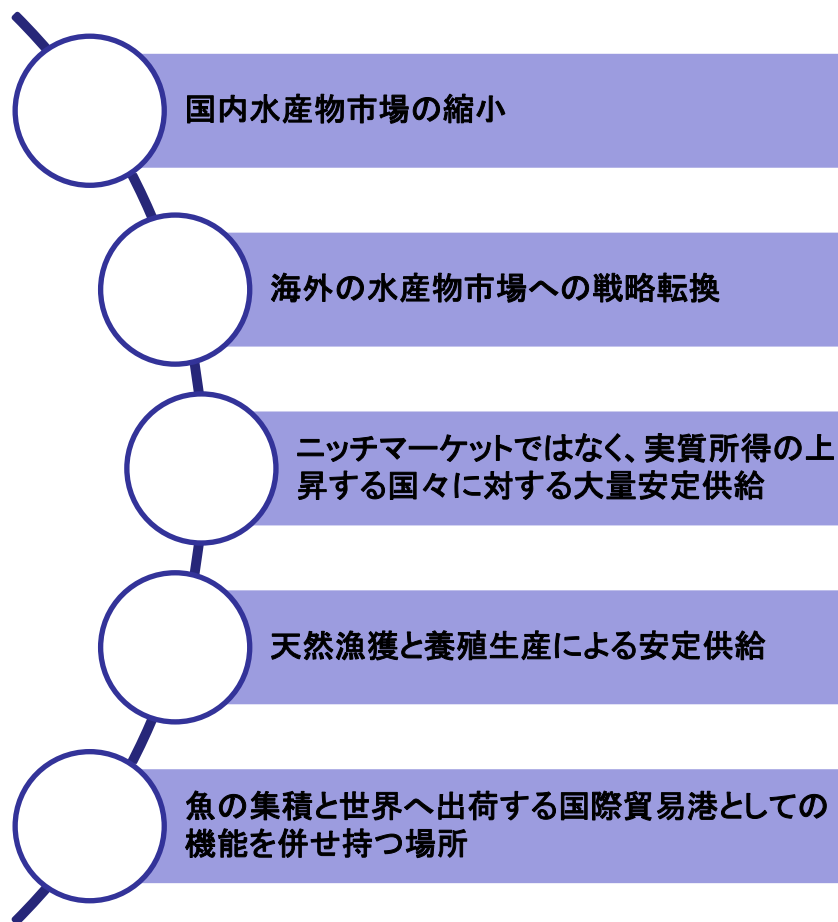


瀬戸ヶ島埋立地における 水産事業可能性調査業務

中間報告

平成28年2月29日

株式会社自然産業研究所



- 国内市場が縮小する中で、海外にモノを売ることが求められる。日本は水産物に比較優位がある。
- 天然水産物のみでは需給変動が大きいため、養殖業の存在は必須。
- 魚を集積することができれば、国際貿易港として魚を輸出する拠点となりうる。

島根県西部地域を代表する企業体としての拡大と地域経済効果

- 瀬戸ヶ島地区における立地条件の優位性
 - 浜田港は**国際貿易港**として、韓国や台湾、ロシアなど、近年水産物需要の伸びが期待される地域への物流拠点になりうる。
 - 高速道路**浜田インター**が近く、大阪ないしは福岡へのアクセスは4.5時間。**国内市場**はもちろんのこと、**空輸による海外市場への展開**も十分可能である。

水産物流通の必須命題である消費地へのアクセスが極めて良好

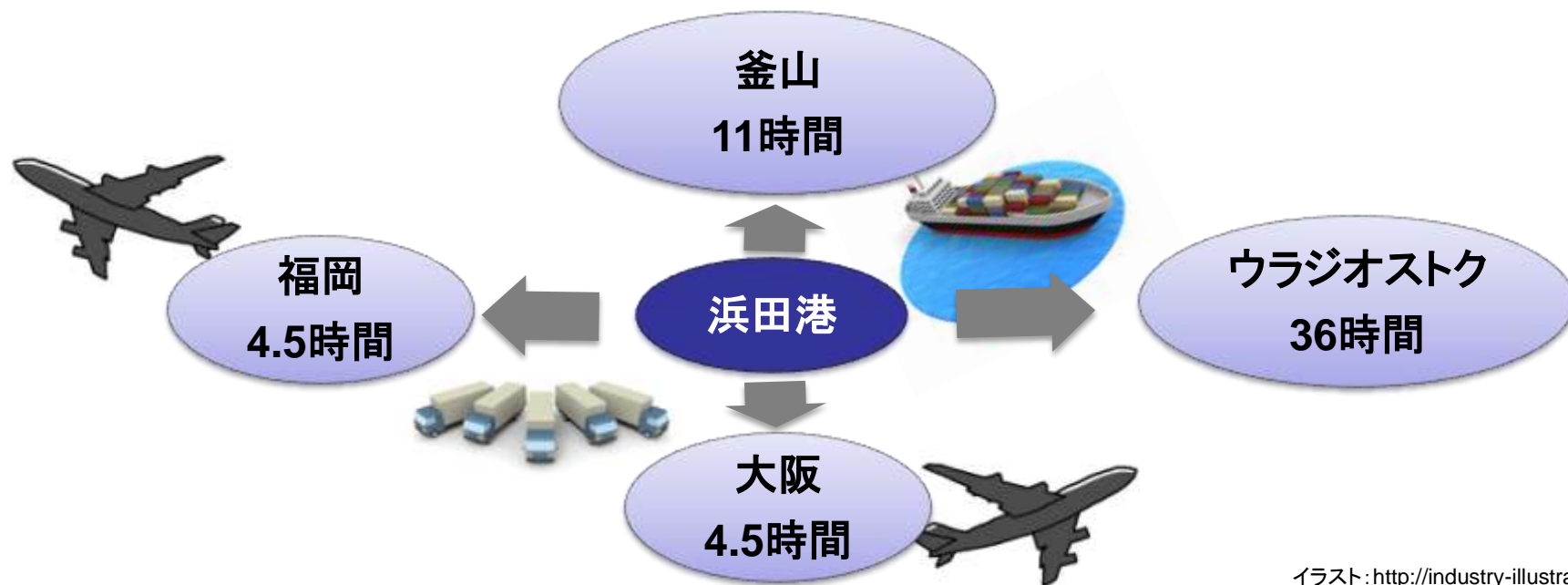


イラスト: <http://industry-illustration.com/>

- 瀬戸ヶ島地区における**既設インフラ**の優位性
 - **海水交換機能をもつ人工港湾：**
 - 養殖、一時的な畜養の両方が可能。それを原料に**加工事業**が考えられる。
 - 加工事業拡大のために他地域からも魚を集めると考えた時には、生きた魚をストックできる。原魚収集先として境港、佐賀、長崎なども検討できる。
 - **人工港湾に隣接する広大な土地：**
 - 人工港湾に隣接して広大な事業用地が造成済である。これは、水産加工拠点として国内有数の好条件といえる。



出展：弊社撮影

蓄養・養殖に適した港湾構造が既に存在しており、水産加工としてみた場合他の水産振興地域と比較しても高い優位性

- 浜田港付近の海域の自然条件と、主な対象魚種
 - 周辺海域は冬場の低水温期においても12℃以上確保されており、**年間を通して20℃前後の比較的温暖な海水温**を示す月が多い。
 - この海水温分布に基づく、**トラフグ、ブリ、ヒラマサ**などの、相対的に市場性が高い魚種を、主な養殖対象魚種として想定できる。
 - 浜田港の水揚げ高(天然魚)では、**アジ**(4,376t)、**サバ**(2,231t)、**ブリ類**(2,685t)が多い。(出典:「平成25年度 統計はまだ」)
- 天然と養殖の両方を加工対象として想定
 - 加工工場とともに冷凍保管を行う施設も併設し、天然魚と養殖魚の両方を効率的にストックコントロールして円滑に回転させる。

浜田市瀬戸ヶ島地先の
月別平均水温はおよそ
12℃から27℃の範囲

主要な養殖対象魚種

トラフグ

ブリ

ヒラマサ

瀬戸ヶ島地区の優位性を活かした事業展開案

- 以上みてきたように、瀬戸ヶ島地区には立地条件、既設インフラ、自然条件の強みがある。
- これらを活かし、原魚生産～加工～流通の一大拠点へと発展させるポテンシャルがある。

立地条件の強み

海路、陸路(+空路)の
物流拠点のポテンシャル

水産加工工場/冷凍倉庫

原魚生産地に隣接した生産拠点
加工品の流通拠点

既設インフラの強み

港湾に隣接
した広大な
事業用地

養殖・畜養に
適した
海水交換機能
をもつ人工港湾

漁業+養殖業

地場の魚、地場での養殖
近隣漁場からの原魚の集荷・畜養

自然条件の強み

温暖な海水温

瀬戸ヶ島地区を養殖、原魚調達、水産加工、流通の一大拠点に

- 瀬戸ヶ島地区は、原魚の搬入・管理と製品の搬送効率の両面の点からして、水産加工のフィレ、ロインなど、ユーザーサイド向け原材料の魚を出荷する拠点として向いていると考えられる。
- 水産加工産業クラスターを形成し、経済成長の活発なアジア圏を中心商圏とした水産供給拠点を目指す。

瀬戸ヶ島地区における水産加工産業展開の可能性

原魚の搬送・管理に適している

製品の搬送にも適している

ユーザー向け水産加工拠点としての条件

水産加工産業クラスターを形成し、
島根県西部地域主導の国際水産供給拠点へと展開

- 今年(27年度)予備調査、来年度(28年度)にしっかりとしたFSを描き、ファンドレイジングへ移行。
- 経営体の形成は29年度、工場建設は30年度から、工場の本格稼働は32年度予定。

時期	実施方針
平成27年度	可能性検討ための予備調査の実施
平成28年度	具体的なフィジビリティスタディ(FS)の作成
平成29年度	実施主体となる経営体の形成
平成30年度	工場建設着工
平成31年度	(工事期間)
平成32年度	工場本格稼働

■ 瀬戸ヶ島地区の物理的条件から見た概算操業規模

■ まずは、蓄養による事業化に取り組む

→ 蓄養生簀45基、原魚重量約2,000トン/年、フィレ換算約1,300トン/年

→ 事業規模 約20億円と推計

(注)ブリのフィレの市況(H27.3月、関東地方、1,463円/kg)を参考に試算

■ あわせて、現地養殖生産を検討

■ 蓄養、養殖、市場調達により原魚調達の安定化を図る

■ 想定される工場建設規模

■ 敷地面積を 1,500～2,000坪程度に想定

→ 将来的な一次加工ラインの併設なども考慮

■ 今後、精査が必要な調査等

→ 港湾内における溶存酸素量等の物理的制約

→ 市場条件や原魚調達条件 等